



本朝文鑑才二

賦類

硯賦

既聖賦

涼賦

將暮賦

讀將暮賦

日和山賦

悠然賦

好色賦

行類

水波行

万壽行

吟類

雨夜吟

曲類

於曲

田舎曲

東曲

舞子曲









狂云此賦ハ誠ニ瀏亮ニシテ全ク賦体ヲ尽セリト云ハ  
 鏡山ノ一節ヨリ古詩ニ六月ノ雲ヲ言セテ此二句ハ  
 主振ヲ云フ古詩ニ玉塔ノ喻ヲ借テ千斛仏ノ光ヲ添フ  
 亦モ故夏古語ノ用イ所ハ此等ノ摘採ニ知レキヨリ本ヨリ  
 尤弱ノ文章ハ獅子庵ノ遺稿ニモ數多ナラシ或ハ湖東  
 ノ文選ニ入り或ハ行下ノ能文集ニ出ラ今ヤ再選スルニ  
 凡ス譬喩ニ而論ラ見及ストモ此一篇ノ趣意ヲ見テ此一篇  
 ノ虚會ヲ知ラハ和ヲノ趣モ云モ之ニ明カニ俳諧ノ頓挫  
 之ニ明ナラシ去ルハ其行ノ詞ニ入カリテ歡平ノ中ノ哀情  
 ヲ忘レサルハ例ニ樂ニテ後世ヤ斯云羽ニ於テ斯又アラニ

染賦

渡吾仲

洛陽のふと川ありて上とかはりにてとと  
 ころをくらしものる川や蟬のわ川とよふ  
 されん年この六月七月十八日のあはれ  
 の橋のこゝろに糸の橋とかはりにては  
 めと床とあつて橋をくしの海もあはれ  
 といふものむらさきおのゝとらふ  
 けしむらさきとらふに波やこゝろの綿橋とかは



見せられた一別子金のあはひの事し中子も抑ひて  
いふに各のあはひの事し中子も抑ひて  
久利の向ふらと望むるやと花のあはひの事し  
きくらや花のあはひの事し中子も抑ひて  
あはひの事し中子も抑ひて  
あはひの事し中子も抑ひて

狂云世跡ハ縦横無碍ニシテ始ハ王城ノ下代ヲ祝シ中ニハ  
帝京ノ花美ヲ顯シテ終リニ遊人ノ哀多クニシテ誠ニ長安ノ  
名利ヲ觀シテ然モ長安ノ名利ニ遊リ或ハ時ノ風景  
ニ和テノ文法ヲ交ハタル或ハ家名ノ和灯ニ浮世草紙ノ

筆格ヲ用イタル或ハ河原金賣物ニ長短ノ對ノ賦体ヲ入  
セル總テハ能詔ノ筆格ヨリ新古今ノ成セリト云ヒ  
況ヤ儒仏ノ高論ヲ擧ケテ其レハ結語ノ輕急ナル言  
文奉ノ虚言毎ラ傳ヘテ洛陽ニ世作者アリト稱ス但シ  
世言ハ渡部氏ニ別在ラ柳後園ト云フ事ヤ人ハ權字  
リトシ

将軍賦

東本七坊

象戯と垂鰭のあはひとをきりて  
とふにら張陣の法ありて  
かすむ國よの王の仁ありて



や勝る所の運入るる上よりその運入るる  
 多し一は多く馬の法とよかたかふかた  
 厚本片標<sup>ヤシラ</sup>けり金銀標香と八よよけり  
 之角行と軍師の位あり一はむしを置し  
 あり富し孔明ありるる諸軍とよて其の  
 下知しきくつとよしよめありし銀將の  
 諸軍ありて敵の城中に争入りて其の  
 ゆき金將の位とありしと將軍の勸告し  
 ありけりよよその楯<sup>カサ</sup>の羽とありて  
 諸將とよめり敵軍とよ其の軍とよ其の

とはふ角のりよく陣馬とよふ世二騎を彼訓練  
 するれりたの敵下の勇力士とよ一はてん軍を  
 居る軍ありて向る軍あり中なる軍は法の軍  
 なるる中央と銀角のありてありてよむ二か  
 一兵の積あり兵書よふ言入逸力法の法ありしよ  
 なく一はりの安とよけりてり或は中なる軍  
 のありてしよよおそれきくしよとててん軍は  
 血をよし標<sup>ヤシラ</sup>ぬよたれと置きしにやよまの銀  
 標とよとよくしよれりてゆくとよるる度とよ  
 されとよるる物を補しよるる敵の楯の羽とよ

若くは味方の大将と討つて馬の足まのまをり  
 不意の敗軍よりあやありけりやとやよ釣のり  
 亂のまよふまをりもまよふまをり  
 此れあれ敵軍より入て玉のまをり  
 けりし極馬とくねまをり  
 金とくし極馬の降よ責よそれ  
 もぬとくし極馬の降よ責よそれ  
 花軍の家の軍術ありされし家のよ此  
 ち極馬のまをり極馬のまをり  
 りもはらふれよ將のまをり

まをりし極馬のまをり  
 まよふ敵とくし極馬のまをり  
 此のまをり極馬のまをり  
 ち極馬のまをり極馬のまをり  
 金銀とくし極馬のまをり  
 のまをり極馬のまをり  
 或は極馬のまをり極馬のまをり  
 可く敵とくし極馬のまをり  
 けりし極馬とくし極馬のまをり  
 極馬のまをり極馬のまをり





敵國とてしるべしとて敵に  
とられしを紅雲のほほとて  
とふにやある可き軍の  
一取あるとて敵將を  
神の靈とてしるべしと  
あしむ梅とてしるべし  
とて世智とてしるべし  
諾とてしるべし梅馬の  
よして敵の油とてしる  
よきとてしるべし香車  
とてしるべし角勢の  
とてしるべし百姓と  
とてしるべし

ふはらふとてしるべし  
よの南とてしるべし  
りて素<sup>スヤウ</sup>鏝とてしるべし  
とてしるべし  
とてしるべし  
いね梅とてしるべし  
両王とてしるべし  
あれとてしるべし  
遠とてしるべし  
と進とてしるべし





こそれとて一へれよとて人のいふことありけり  
 し刻陸の人と勝つていふ事と聞かされし事  
 服遠の族らと負つていふ事とトはしんやけし  
 ると冷きとあくはれぬ事ととていふ事と  
 うと世といふ事と兵のけりし事と各人號の  
 勢より一ぬの情とあわれみし事と互よ事  
 との遠く大般若の真諦と事とあわれみし事  
 の時時といふ事と

任云此の篇ハ前賦ノ註ナカラキヤク故夏古語ヲ解スルニ  
 之ニハ句對アリ意對アリテ體ニ賦體ヲ尺成セリ其ニ

應用自在ト云し其ハ前公ハ傳類ヨリ多ク讀ハ  
 ン顯セリ然レハ此ハ篇ノ題ハ始ニ其ニ節ノニ  
 戸般ノ情ヲ喩ヘ儒公ニ思ノ理ヲ遠心ニ或ハ  
 輕シトハ子孟父ハ母竜ノ妹トヲ攝シ杜陵カ  
 或ハ保元章叔トハ和ニ信賴ノ敗軍ヲ云ク漢  
 師ヲ云ル但シ先帝崩御ノ二年号ナラン或ハ  
 和漢ニ智勇ノ高士ヲ云イナトトテ異見トカ  
 ニレテむも數畧ヲニ罪タリナリ増シテ宗成  
 金銀ノ情ヲ青尼シテ文章ノ風情ハ多ク知  
 ノ對ニ其レヲ教ヘトハ其名ヲ云イテ是ヲ鳥  
 十



元を隠見ノ法ナカラ其是ノ二子ニ云クナリテ世守ハ奇  
絶ト称スレシ然レニ結語ノ大般君ハ少将集中侍其ト云フ  
ヨリ摩訶大ノ子ニ結言ラトル世守ハ高田意即好トモ云  
ニ但シ野航ハ四々美申ナルカ別姓ハ村瀬ニシテ濃ノ山縣ニ  
住ス蓮ニ房ト徒才ナリ

旧和山賦

山并昨右長

漢ノ和山ト云ふ名ヲ存スル爲ノ憂トスル眼界  
ノあんとせまふれハ世傳ノ和山ト云ふノ國川と  
帯ト云ふ五反田と稱トスル一帯ハ昔々ノ切の山ト

しめし一白糸ノ千里ノ遠ト云ふハ山ノ盡山の如ク  
ありテ海ノまじりテ海ノありハ一林扉と云ふハ此  
より市店ノ白壁ト云ふありテ南ノ金風と云ふ角靜  
ノ鼓石といハ一北ノ月夜と云ふハ入道ノ鐘と云ふハ  
の葉飾ト云ふハ観立ノもふハの標カト云ふハあつ  
た標ノ南の灯ト云ふハやハ一吹やと云ふハ北ノあさ  
西南ノ海と云ふハあり白根のやと云ふハおとくハ新羅  
の月ノ子と云ふハあつたと云ふハ眼界と云ふハあつ  
むハと云ふハあつたと云ふハあつたと云ふハあつた  
はめハと云ふハあつたと云ふハあつたと云ふハあつた

近き所はくりのきとよき所はくんとは和雅の人とす  
 くらあきしにいせぬのたるとあきあきあきあきあきあき  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 優しきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 のりあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 巨はたかきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 のりあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 加はたかきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 橋のりあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 いれあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

とすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 煙はたかきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 これを世津の遊すすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 かくらて佐お娘の酒ときあきあきあきあきあきあきあき  
 近き所はくりのきとよき所はくんとは和雅の人とす  
 のりあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 遊すすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 近き所はくりのきとよき所はくんとは和雅の人とす

へいこいんあしんねと船のりつあといきまの向ふ  
 のまじりとくしつ秋のねねとらむむく天地を  
 人の知へまうとつとて思の向もつとつとやと  
 夏より和らけの脚はくつてぬくやるとらむむく  
 狂云々篇ハ全ク賦体ニシテ文法殊ニ遠キヲ始主勃々  
 ノニまヨリ金鳳月を忽ノ南寂ナル白根ニ新羅ノ一  
 天地ヲ總ト云シ或ハ山海ノ各物ヲ賦シテ上ノ戸ニ下  
 ノ自在ニシテ握レリニ奇ヨシハ文法ノ凡係ナラン或ハ  
 ニ胡蝶ニ雷ノ席ハ奇好ニテ依夜姫ニ衣通姫ハ時ヲ得  
 スレ然ルニ朝雲暮雨ノ四子ハ宋玉カ賦ノ神女ヲ借テ云

ハ山ノ高ビタル長恨ノ情字ヲ合ヒタル誠ニ博達自在ト  
 云シ去ルラ江ノ如ク言ノ嘆息ニ寄セテ云々ニ今命ノ空月  
 成ヒル本朝文粹ノ序類ニ見合スレ總テ世賦ノ趣ハ山ノ風雅  
 ノ人ヲ待ツト云ヨリ北山後文ノ山靈ニ寄リテ北山ノ風雲  
 ト云ル鐘山ノ黄雲五毛巫山ノ神女モ皆ニ文彦平ノ起結ニテ  
 一篇ノ首尾ヲ見ルレ但し作者然レ國住ス山居各命ノ風土ナリ

悲心賦

種し子

雪のありりふゆりてやと晴るり日世君土庵ふあつ  
 て例のあはふしありのまよとこしとよ法くあれん

陽よとびしうねまありき。あゝと人とあはれをて  
唯しうゝ悠然たるのこ流るはらふあつらひんや  
そのまに舟のきもあまかしくたの舟に人のきくま  
まゝちりあり流るはらふとちりしやは君はまの舟  
とひしめ人とりあひしはくまふと人とよむま  
あゝととほま人とほまゝとあゝととひまは庵全  
とまゝととあゝととあゝととあゝととあゝととあゝとと  
もあゝととあゝととあゝととあゝととあゝととあゝとと  
あゝととあゝととあゝととあゝととあゝととあゝとと  
唯しうゝ悠然たるのこ

和云世賦ハ世語格ニシテ然モ文賦ノ瀏亮ヲ尽セリ之ハ世  
ノ悠然ヨリ或ハ字ノ濁ヲ用イ或ハ字ノ且此ヲ用テ總テ  
其詞ヲ世<sup>カサヌ</sup>互止ニシテ其用ヲ抑<sup>サタ</sup>ケス世等ハ漢文ノ尽サル  
所ニシテ和文ノ風格ヲ知止シ但シ世君之庵ハ賀ノ金城ニ在  
テノ駒ノ子ノ舟ニ在リむモ水行ノ垂居ニウ然ルニ世名ヲ隠シ子  
トハ削ニ世師ノ隱号ヲカラ某<sup>シ</sup>ニ在子ヲ讀ムル時ノ門題トシ

和色賦

三魚好法師

あゝととあゝととあゝととあゝととあゝととあゝとと  
あゝととあゝととあゝととあゝととあゝととあゝとと

あつておぼしめしあつて親のつとめ  
そのことばいふにふくむあつて  
いふにふくむあつていふにふくむ  
いふにふくむあつていふにふくむ  
いふにふくむあつていふにふくむ  
いふにふくむあつていふにふくむ  
いふにふくむあつていふにふくむ  
いふにふくむあつていふにふくむ

彼云世の中は世に知れ徒然神ノ之段同ナリ然レラ宋玉カ類  
ニ效イテ今ノ之子ヲ題スニ其類ハ異ナドモ且ツ思ハ同キ  
ナリ亦モ世段ハ其書ノ角ニテ古今ノ抄者モ復ニ七類  
ハ倒ス去ルハ字文者ノ習ヒテ色ハ好ムニキ経書ヲ存スナ

色ヲ好ムキ道理ヲ知ラス博シテ好ムヲ解セスヤト徒然證  
ニモ世論アリ誠ヤ好ムヲ擇字トスルハ群言ニ今ノ宮女ヲ  
擇トモ次女モ情モ世ニ勝レ一生添トモ飽スト云フ天下無  
双ノ美人ハナキ故ニ無好ハ独露ノニナラオメテ昇玉元ハ  
無妻ノ道理ヲ云ヘリ世故ニ及豆大夫ハ觀唇ノ妻ヲ愛メ  
五人ノ子ヲ生シ宋玉ハ鬻輔ノ婦ヲ擇シテ独露ノ男ナリ  
三無好ノ云ル好色ハ宋玉カ云ル好色ニテ多ク好ハ異ナドモ  
其意ハ同シト註セルナリ疑モナク無好ハ文選ニ世賦ラフ也  
ナラン誠ニ世段ノ昇玉元ヲ知ラハ二百余段ノ才ニ置ルナリ  
ノ意モ明カニ無好ノ生モ明カニ儒仙ノ方教モ明ナルシ

行類

水波行 五言

山岸昨有表

之国の北一里くらり大津山の祓下へ海曲ありて所と  
 東尋常坊とてふ世へ傳ふ流に所り天らの比のくんと  
 言ふのやもぬき此家徒多りと其性よぬり暴徳  
 てその所とあふむよその徒とたてを常へ海おと  
 世業とらりには師業とてしぬえとてくといふを  
 こらむむしよとほくしぬあひぬまの思ふ所よらぬ  
 大いよ海よくくちて候よ岸より空を渡りてつらと  
 あふれにけり怨念をいせ海曲よこらりてよくぬ月

五里よの風あづくけきくらり西海山湊のりよらぬ坊  
 のまよしして海よ敷ともをよけ海よ世側へぬる  
 おうーてよ尋常の井戸と覗くことくぬる元は曲  
 うらやまやんちらとふ脚の齧きこららぬせよのら  
 ぬの所あしつるあうー和尙の頭とけくらりて世側を  
 めこぬけりく風波のらりもあふちらぬあふちと  
 志くし尋常の風浪もあしして尋常の風推よあふよ  
 へんやと世に備へ候がとあふちらぬ  
 むしう傍ありきよとあふちて 舟舟のたれいぬらぬ  
 一念の風ららぬらりあふちて 舟舟のたれいぬらぬ







祝し或ハ鷓<sup>セウ</sup>ニ照ノ鳥ハ鷓<sup>セウ</sup>ノ倒将ナリ或ハ逢坂ニ響<sup>ウツ</sup>自ハ鶴<sup>トウ</sup>  
 虚<sup>ウツ</sup>言<sup>コト</sup>ラ合セテウヤマノ南<sup>ミナミ</sup>ハ臺<sup>ダイ</sup>字ノ縁ナリ或ハ櫻<sup>ウツ</sup>鳥ニハ  
 西行ノ言ヲ滿リ奉袍ニ東坡カ詩ヲ寄セテ例ニ和<sup>ワ</sup>通<sup>ツ</sup>  
 ナリ去<sup>ク</sup>ハ東坡カ布穀ノ詩ニ勸<sup>ウツ</sup>我<sup>ガ</sup>服<sup>フク</sup>布袴<sup>フク</sup>トハ言<sup>コト</sup>鳥<sup>トウ</sup>鳴<sup>ネ</sup>  
 上<sup>ウ</sup>ハ多<sup>タ</sup>ニ奉<sup>ホウ</sup>袍<sup>ポウ</sup>ト云<sup>イ</sup>イカタルナリ或ハ三<sup>サン</sup>早<sup>ソウ</sup>ノ名<sup>ナ</sup>ラ云<sup>イ</sup>ハ御<sup>ミ</sup>所<sup>ショ</sup>  
 万<sup>マン</sup>歳<sup>サイ</sup>ノ詞<sup>シ</sup>ニ難<sup>ナン</sup>波<sup>ハ</sup>曲<sup>ク</sup>トハ酒<sup>シュ</sup>ノ名<sup>ナ</sup>ナリ然<sup>シ</sup>レハ聖<sup>セイ</sup>俞<sup>ユ</sup>カ四<sup>シ</sup>念<sup>ネン</sup>四<sup>シ</sup>語<sup>ゴ</sup>ニ  
 提<sup>テイ</sup>在<sup>ゼイ</sup>盧<sup>ロ</sup>沽<sup>コ</sup>美<sup>メイ</sup>酒<sup>シュ</sup>ト啼<sup>テ</sup>ク身<sup>ミ</sup>ハ日本<sup>ニッポン</sup>ニ糊<sup>コ</sup>搗<sup>ト</sup>ノ類<sup>ルイ</sup>ナリ啼<sup>テ</sup>トハ  
 和<sup>ワ</sup>言<sup>コト</sup>ノ詞<sup>シ</sup>ニ合<sup>カ</sup>ヒテ鳥<sup>トウ</sup>ノ俗<sup>ソク</sup>語<sup>ゴ</sup>ヲ變<sup>ヘン</sup>タル多<sup>タ</sup>ニ天<sup>テン</sup>章<sup>ショウ</sup>ニ虚<sup>ウツ</sup>言<sup>コト</sup>ラ  
 凡<sup>ソドモ</sup>レシ或ハ團<sup>ダン</sup>扇<sup>セン</sup>ニ柄<sup>ヘ</sup>トツケ而<sup>シテ</sup>子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>ハ囉<sup>ラ</sup>物<sup>モノ</sup>ノ扱<sup>アツ</sup>ナリ涉<sup>セツ</sup>子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>  
 ノ蛇<sup>ヘビ</sup>カクナリ總<sup>ソウ</sup>テ万<sup>マン</sup>歳<sup>サイ</sup>ノ詞<sup>シ</sup>ニハ子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>トツケルトニ用<sup>ヨウ</sup>エラ<sup>ル</sup>或<sup>シ</sup>京<sup>キョウ</sup>

タイラアトハ平安<sup>ヘイアン</sup>城<sup>シヨウ</sup>ノ子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>ラ云<sup>イ</sup>テ<sup>テ</sup>勇<sup>ユウ</sup>桐<sup>トウ</sup>ハ當時<sup>トウジ</sup>ノ法<sup>ホウ</sup>紋<sup>モン</sup>ルラ市<sup>シ</sup>ノ  
 三<sup>サン</sup>重<sup>ジュウ</sup>部<sup>ブ</sup>ノ早<sup>ソウ</sup>言<sup>コト</sup>ニ效<sup>ケウ</sup>イテ多<sup>タ</sup>ニ毛<sup>モウ</sup>罽<sup>キ</sup>云<sup>イ</sup>ハルナリ或ハ我<sup>ガ</sup>朝<sup>チヨウ</sup>ノ松<sup>ソウ</sup>ニ鶴<sup>トウ</sup>トハ  
 平<sup>ヘイ</sup>ノ子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>ニ洛<sup>ラク</sup>陽<sup>ヤウ</sup>ヲ祝<sup>イハ</sup>シ松<sup>ソウ</sup>ノ子<sup>シ</sup>鳥<sup>トウ</sup>ニ武<sup>ブ</sup>城<sup>シヨウ</sup>ヲ祝<sup>イハ</sup>シテ尤<sup>モト</sup>モ千<sup>セン</sup>歳<sup>サイ</sup>ノ  
 カケナリ或ハ千<sup>セン</sup>年<sup>ネン</sup>ノ祝<sup>イハ</sup>トハ諸<sup>シヨ</sup>ノ万<sup>マン</sup>歳<sup>サイ</sup>ノ結<sup>ケツ</sup>語<sup>ゴ</sup>ニヤラタノレトハ舞<sup>マヒ</sup>  
 收<sup>シュ</sup>メ各<sup>カク</sup>ヲ今<sup>イマ</sup>ハ市<sup>シ</sup>ノ法<sup>ホウ</sup>制<sup>セイ</sup>ニ寄<sup>キ</sup>セテ家<sup>カ</sup>ノ庭<sup>テイ</sup>電<sup>デン</sup>ヲ祝<sup>イハ</sup>イタル誠<sup>マコト</sup>ニ  
 同<sup>ドウ</sup>出<sup>シュツ</sup>々<sup>ツツ</sup>千<sup>セン</sup>万<sup>マン</sup>歳<sup>サイ</sup>行<sup>ユク</sup>ナルレ但<sup>シカシ</sup>レ華<sup>カ</sup>表<sup>ヒョウ</sup>人<sup>ニン</sup>ハ我<sup>ガ</sup>師<sup>シ</sup>ノ隱<sup>イン</sup>名<sup>ナ</sup>ナラ<sup>ル</sup>文<sup>モン</sup>法<sup>ホフ</sup>ノ奇<sup>キ</sup>怪<sup>クワイ</sup>  
 フ憚<sup>ハナカ</sup>テ多<sup>タ</sup>ニハ丁<sup>テイ</sup>零<sup>ゼイ</sup>カ鳥<sup>トウ</sup>ラ云<sup>イ</sup>ハルナリ

所類

雨お吟

流戸文

ひうたよとておねたてして  
 雨のふと神とておねたて









存美良し世ヲ為稿ニ過キヨトナリ或ハ流モ因スヤトハ一ニ申中ノ  
 短語ニシテ君見スヤ君因スヤノ例ニ古學府ノ常語ナリ然ルニ  
 秋子ヲタキテハ猿抱子ヲ帰ニ青嶺後ト云ル古詩ノ意ヲ  
 向スヤト舞子ノアトキヲ諱メシナリ但シ世ヲ忍一以下ハ及ニ  
 抱子ノ向ヲ推キテ例ニ変吉ノ曲ト見ルニ況ヤ桃李ニ西木栢ヲ  
 對シテ佳者ノ名ニ居ラヨリ疎菜ノ守キニ暇ラニハト先賢  
 ノ詞ヲ取言セテ朝ニ暮四ノ世ノ様ヲ云ル世等ハ和音ノ文章  
 ラ傳ヘテ世ノ采ノ落ニ教誡ヲ忘レサル誠ニ天地ノ情ヲ動シ誠ニ  
 鬼神ヲ毛泣シム一シ

本邦文鑑序之

引類

富士引

手雨引

謠類

雨乞謠

石搗謠

辭類

風俗辭

山姥辭

艶詞

戲佛辭

博捨子辭

夕暮辭

鳥遊辭

歲類

閑居歲

猫恋歲

引類

富士引

并寄

山部赤人

あぢけらのまねけしけし神さひてさくかたに駿河の  
 かのさなとあやのさうりさけさねさるはれ歌  
 かくらひてる月のさへもんもまやまのゆきけり  
 阿くはさるさぬりさかきさねふりしはまゆき  
 不らしのさきうねを

臣子此浦よりしらぬてさねいさるる

かのさなとあやのさうりさけさねさるはれ歌

ね云引ハ諸物ニ分明ナラス去下詩騷ニ似タル物ヲ序引ト

系テ註シタル引ハ決シテ詩系ヲ後ニト云ハ題註ノ字々ノ  
 意ナランハ故ニ詩人玉屑ニモ始末ヲ載ルヲ引ト云テ彼ニ詩引  
 ト系ハ註セリ然レハ万葉ノ題名モ山部赤人望本今山  
 歌一着 系短系トアル時ハ二則ラ体トシ後ラ用トセリ去レ  
 長短ノ遠ヒアリトテ同シ系ヲ二着ツラ子テ系ハ歌トハ如何  
 強テハ長短ノ系ニ着トハ云ハシマハ長系ヲ引ト云テ短系  
 ヲ後ニナレハ誠ニ本朝ニ引類アリテ是ラ古今ノ文鑑  
 トナサハ選者ニ一都ノ眼力アリト稱スレ況ヤ結文ノ詞ヲ見ニ  
 云クツキ行ニ富士ノ山ト次ノ短系ニ云クカケタル不思議ニ序  
 ノ両格ラ二系ヲ和漢冥合ノ引ト云ハシ

小引

年なり

ふむ

父を名うてあふ暁草の二子入るとまくれ風雅とて  
 ありてあふ... 其の子を扶へてその名を... の親  
 なく... 子も... 家の...  
 ... 母の... 子に... 名と...  
 ... 子に... 名と...  
 ... 子に... 名と...

引云此引ハ名、説ナラシ路ニ長短ノ拍子アルハ社中概行杖

引ニモ似タラシ是ヲモ傳文ニ引ニ体トスラシ然レハ草ノ子ヲ  
 以テ始ハ其ハ又ノ遺遺名ヲ称シ中比ハ其子ノ教訓ヲ加ヘ終ニハ  
 祝詞ヲ用イタル誠ニ序詞ノ短小間ニノ一篇備積ラズセリト云  
 へシ増シテ花鳥ニ詔ヲ寓セテ引ニ文法ノ凡俗ヨリ重部  
 フモテナスニ虚實アリ或ハ其向ニ袴トハ南ニ之膝袴ノ縁  
 アリテ其子ノ行儀ヲ云ヘルナラシ但シ比南ハ本以氏ノ子ニシテ  
 其比ハ少年ナリトワ越ノ高田ニ産入暁草ハ又ノ能名ナリ

謡類

雨乞謡

般世珪和尙

うれ... や... せ... せ... せ...



いされもろくろく一へさくらをまじあひらけり  
 ね云此説ハ播下ノ人ノ善ク各傳ヘテ而シ躍ノ唱ウチリナリ  
 去ルハ其世ノ國民ニテ此和尚ノ通悟ヲ慕ヒテ而シノ奇特  
 ラ觀ヒテラシニ心外無法ノ禪語ヲモテサス此等ノ經語ヲ  
 三聖部ニ教ヘ給ル誠ニ狂言綺語ナカラモ仏業ノ縁ヲ  
 結フヘクハ天モトヤ納受ナラシ其ハ本來ノ面目ニシテ  
 其ハ例ノ不生ナリト其家ノ人ハ按排スヘケト實ハ躍  
 ノ望ニ敬レテ中レ附テ遊戯自在ノ法ト見テ深く信シ高ク仰  
 クレ但シ始ニ播ノ龍門ニ住シ後ニ天下ニ擡行シテ  
 仏法東漸ノ禪師トハ云ヘリ

石搗謡

并序

石搗謡

ひー休養神曲居の法時よあへりあふたふた  
 とくねらばはれそのあへりあふたふたふた  
 うーてた工の作るまゝ宛一丁とて埒めりやめり  
 豊穡の法時よあへり人といはれむいふるのやうに  
 んとくもよも水作の味よときとくもいふる殿周奉  
 のせくとくも人の心とあやうにゆりや感陽宮此美  
 とくもいふられし殿さのやめりあふたふたふた  
 と一おのほとあへりいふるやめりあふたふたふた

其の一首ハ一尋七句ニシテ或ハ古来府ノ体トモ云フ云レハ  
 其ノ序ハ虚誑ナラシク世ノ事ヲ言フヤセシ文雅ニシテ且ツ  
 可笑シ況ヤ其誑モ俚語ナラシク花ノ事ニハ雅ラ添ヘタル  
 此等ヲ和諠ノ文鑑ト見ルニ但シ此等ハ教ハ加ルノ金城ニ兩  
 度ノ面祿アリテ牧童北枝カ風雅ヲ残見其句ハ其世ニ  
 可行情リトソ或ハ題下ノ指主仁平ハ削ニ我師ノ名ナラ

ね云此録ハ一尋七句ニシテ或ハ古来府ノ体トモ云フ云レハ  
 其ノ序ハ虚誑ナラシク世ノ事ヲ言フヤセシ文雅ニシテ且ツ  
 可笑シ況ヤ其誑モ俚語ナラシク花ノ事ニハ雅ラ添ヘタル  
 此等ヲ和諠ノ文鑑ト見ルニ但シ此等ハ教ハ加ルノ金城ニ兩  
 度ノ面祿アリテ牧童北枝カ風雅ヲ残見其句ハ其世ニ  
 可行情リトソ或ハ題下ノ指主仁平ハ削ニ我師ノ名ナラ

辭類

風俗辭 并序

渡部ね

其の一首ハ一尋七句ニシテ或ハ古来府ノ体トモ云フ云レハ  
 其ノ序ハ虚誑ナラシク世ノ事ヲ言フヤセシ文雅ニシテ且ツ  
 可笑シ況ヤ其誑モ俚語ナラシク花ノ事ニハ雅ラ添ヘタル  
 此等ヲ和諠ノ文鑑ト見ルニ但シ此等ハ教ハ加ルノ金城ニ兩  
 度ノ面祿アリテ牧童北枝カ風雅ヲ残見其句ハ其世ニ  
 可行情リトソ或ハ題下ノ指主仁平ハ削ニ我師ノ名ナラ

の言律とまゝにあらうといへばちのうゝし高の言約  
 こと通ともくも漢文の辭類と武帝の秋風と好し  
 ついで六朝一叶のあゝといの中より詩よりして騷とあり  
 騷よりして辭とふれ、騷の言ふところも詩の言  
 へるものなればん神帝のうゝありて物と一きい  
 ことと情とありてありて治ち入柳のさういあん二さ  
 一考してその一務あゝいせよ五七の律ありて詩の式も  
 ありてそのさういせよの以情とさねるいさういあゝる  
 仲ふれちありて漢の帝は秋風と起ありても經と潤  
 ありねる何の格よりいへるさういせよとて詩と一は建辭

といふれあゝかの船とさゆよ群臣のあゝいて建辭の  
 辭の子とあゝいせよありて一はよちよ事の起るさうい  
 せよの訓解あゝいし辭類とさういせよの所とて  
 つれよよ訓のほゝあゝいし説文と建辭とて  
 此方の詞ありてさういせよの微情とさういせよ  
 或い言向のふありてさういせよの或い古文式と建辭と  
 詔類とさういせよのつよとさういせよのやと事のかた  
 詔類とさういせよのつよとさういせよのつよとさうい  
 とつよとさういせよのつよとさういせよのつよとさうい  
 のさういせよのつよとさういせよのつよとさうい  
 ことと事と記ありて伊路也訣の詞とさういせよとてさうい



和云此一宮備ハ辞類ノ註解ト凡ルニ此然也楚辞ト云付ハ  
 楚國ノ人ノ語音ヲ字セシ聲息ハ固東ニハイト云イコソト  
 云イ都ニハサシセ氏アシ助語ハ固々ノ風俗ナリ去リハ  
 モリ辞モ句讀ノ長短ヲ調ハルハ詩賦ノ行ノナラス  
 凡七題ノ外ニハ格ヲモ立テ書ク文類ヲ漏ラサレナリ  
 去リハ頌城ノ詞ニハワシモテモ彼カ平語ナカラ被ヒルト云イ  
 薄ニカルト云ル例ニ凡雅ノ志ニカルナリ次ニ馬士ノ詞ニ錢<sup>ニ</sup>  
 名ヲ彼カ以俗ニシテ十又ラ佳ト云イノ十ヲ周ト云ル行ノ  
 一字ハ例ノ凡雅ナリ或ハハコシモ通テ又トハサレナラ又ト  
 云フ夏ヲホツトワメスハ助語ニ此等モ遠服モ云ニ知<sup>ル</sup>

山鏡辞

一體和尚

ちんじ山鏡をよふとるにさかたのあききくわらぬと  
 ちんじりといつゝまふの奥のあききわん人向ふあは  
 しそ色をつらさればとどくうらふ自由とて重代し  
 一念化しの思ふすともありて目ふまきわん邪正一如  
 とする時を色節是空そのまじに仰はぬわん世  
 あり頗懐あはま言授あり仰あわんわん世ありあま  
 あれと山鏡もあり仰あまみあはわん世ありあまき  
 けん人向ふあはまあまあり付いそ鏡の推鏡よりあは

うけあひしむるまゝの二河とくし一月のあはれふらふとて  
里まておくる時とありぬあはれは職場のいとしさ  
窓へ入て花のうらみさるさるの紡績のかたゝも  
ととくときとささるるささるるの月よつてお思  
とや人のうらみとせとく解のかたゝもささるる  
とささるるおまの月よつてお思とく人のささる  
るも子あの方あり此礎あり此ささるるささるる  
らささるるやなよかたりとせとくささるるささるる  
いささるるささるるささるるささるるささるる  
お嬌ういささるるささるるささるるささるる

狂去此解ハ世ニ知レル詠ナラ例ニ我師ノ論ニ任セテ爰ニ辞ノ  
一字ヲ加フ去レト而耑ノ詠ヲ指シテ辞類ト云ニアラズ詠ノ  
中ニハ此類アトスナラニ去レハお嬌ノ一冊ハ一体和尙作トカヤ  
世ニ普ク云イ傳ヘテ右今ニ本有ノ文法ナリト誠ニ忽然  
念起ヨリ諸法比自空ノ道ヲ示シ魔仰一知ノ理ヲ顯シ  
テ抑ハヒトリ花ハ紅ト同前ノ境ヲ云イ尽シタルニ色ト云  
字ハ結前生後ノ備キアリテ抑ハヒトリ文ヲ鏝タレ仏理  
ニ通セスハ一体ニ凡シコトクノ文字ニ達セスハ一体ニアラザラン  
況ヤ花ニ依リ月ニ理シト文章ノ透向ニ鼓舞ヲセル程度  
モ尚テ感スキ段ナリ但シ詠ヲ辭トハ語路ノ長短ニ知ルキナリ

艶詞

葉末部

作云湖のほとけしとて花の葉のつら  
かへつとてはさきさきとてはさきさき  
こぼれかたさきさきとてはさきさき  
かたさきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき

おうりささきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき  
さきとてはさきさきとてはさき

狂云北段ハ源中紅葉加見ノ詞ナラヌニ此題ヲ加ニ又  
ハ之懸隆乃方ノ艶詞ニ子ヲ借リ去ハ源中物語ヲ  
秋歌ノ文ニ草ノ鑑トナレハ筆ニ縦横ノ神アリテ人情  
ヲ尺ハスニ委曲ナラスト云者又ナレ増シテ北段ハ源上ノ源中  
思ハレ給ヘレ六十帖ノ中ノ骨節ナラシ然レハ幼キニ對シ

テ余所ノ恨ヲ負フニシク永ク世ニ在リテ添ハントハ却テ  
スカセル詞モアラス好色深妙ノ幸情ナルニ<sup>ウチツキ</sup>巨頭玉ト  
テ心ナランまレト巻モ角モイラ玉ハスト云所ニ枕ヲ<sup>シ</sup>緋ト  
源氏トノ淺深ヲモ知ルキナリ誠ニ其名ノ勝花ニ般盤石  
ヲ以テ押スル知ク深年モ立カ子給ヘハ筆力不忠誤ノ  
艶詞ニシテ此向ニ甚深ノ情ヲ汲ム

戯佛辭

鳥丸芝磨

善福ニ此世ニ善ヲ一葉ニまら<sup>テ</sup>下岡海極金  
の鑄像ナリ多田新翁ニ濡仲の御佛ト云

けい<sup>く</sup>己<sup>二</sup>痴<sup>の</sup>たれ<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>と南<sup>中</sup>あ<sup>く</sup>  
佛と十却心<sup>ふ</sup>入<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>  
ひの<sup>ち</sup>あ<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>ま</sup>い<sup>や</sup>田<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
和<sup>心</sup>無<sup>心</sup>人<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
ま<sup>れ</sup>あ<sup>く</sup>と<sup>と</sup>有<sup>馬</sup>山<sup>の</sup>又<sup>雪</sup>方<sup>と</sup>け<sup>し</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
来<sup>近</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>

無<sup>事</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
あ<sup>く</sup>の<sup>柳</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>



狂云此書師ハ光之廣知ノ有馬ニ入湯ノ付ノ筆ヲ白トテ書  
 行次ニ書傳テテ見角ノ語モ直ニキカ然レニ此ハ師ノ題名  
 結文ニ綺詔ノニ子ヲ見テ此ハ子ヲ以テ題セシカ中論  
 ノ一有テ辭ト見レハモモ古文ノ漁父辭ニ似テ之則後ニ  
 序詞ノ文勢アレハ此等ハ漢家ノ辭ト云ハシ但シ此師ハ  
 和音ノ家ナカラ此等ノ字格モ遊ヒ至ル誠ニ文法ニ  
 誦カヨリ虚實ノ自在トハ稱スレ

情捨子辭

芭蕉庵

野波の園より川みぢりりるるの山くろりある捨子此

あられもさへほありいさやけ川のよの原いのみてほ世  
 の波とまのあさきしりあはけくろの命かよふ  
 まるもとくこさるしおさかちの秋風しとや  
 りらんあさやとちれんと袂より泣きあえり  
 後とす人捨よしの秋の風りよ  
 いさやけやけをさるるまれらるるほを母と叫れ  
 きらら又らほとらじよあはれ母をほとら  
 あらしけれとらしけのほらとら  
 狂云此辭モ漁父ノ文勢ナラテ捨子ニ秋ノ風イカニト  
 向ヤケテ如何ニヤト序詞ニツケタレ但シ辭體ノ一体

倭文ニ辞ヲ立凡時八千般ノ法格凡レシ誠ヤ富士川ノ瀬ヲヤシ  
 浮世ノ波ニニイカレ凡此川ナラテハ更ニ知レシシハ秋ノ露  
 ハ深中ノ奇ヲ借リ父母ノ情愛ハ在子ノ天性ヲ云凡例ニ  
 和漢ノ博達ニシテ是ヲモ漢家ノ辞ヨリ倭文ノ助語ヲ用得タリ  
ト云レシ

又暮辭 并序

東花坊

いゝ海あり湖東の人と送るを武江の世々の  
 ふとあゝさるる東の坊にけりありてけ別とあは  
 けありや海よたの人をけり人の無き世のなを新所  
 ありはねのこむいゝら海にむいゝる唐土のこむい

下詞とりて送る人とらむ然とりて送る人とらむ  
 この海をよみ海のこみ人ありやけりし世の海の  
 ふとあゝ然とあは人のあはむとらむいゝるあはむい  
 ゝら海ありあは人の一針の備とらむて二高の旗  
 妻よとあはらむ海の人のあはむとらむいゝるあは  
 むとらむいゝるあはむいゝるあはむいゝるあはむい  
 のし春秋をいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる  
 いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる  
 かゝいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる  
 皆詠りて格とあらむいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる

和やけのよにあつらへ武陵百里の藤よあやむきり  
 そ言ふれよふらふいけしひふさうにありまはらふ  
 あつらへくけけのつらふとこ秋よらぬの月と  
 よ二百里のおねぬ人のあつらふの月とあつらへ  
 ちて越路の角と命ふらふ人あつらふのあつらへ  
 け人をあつらへ梅のまよとわらふ花坊うけ人をあつらへ  
 入るよ支梅の説のよと梅のむのねとあつらへ  
 ち梅のに南よをいけふあつらへ酸の味とあつらへ  
 馬祖と危倒の若草とあつらへ梅の園とあつらへ  
 として四年詠ふことやあつらへ梅の園とあつらへ

あけそきくけけとあつらへ

梅のよやけめくけの龍くとせとあつらへ  
 せれえあつらへあつらへあつらへあつらへ  
 舞のうとあつらへあつらへあつらへ

狂云北辞八十二句ありて鶴立句の発語八十二句にして  
 六韻ナルキニ是ハ二句合セテ一句ノ意ヲ取故ニ六句ニシテ  
 ナリ是ラモ叶辭ノ一格ト見ルヘシ去レハ其ニ序ハ老子ノ詞ヨリ  
 中比ハ毛詩ノニ秋ヲ摘シテ和ニ仲磨カキテ書セ漢ニハ  
 王維カ詩ヲ合ハス梅子ハ傳灯ノ故古ニシテ師才ノキノ称名  
 ニヤ總テハ西行ノ東下リニアラテ定家所ハ心屋ノ伝

しかり云ん本ヨリ之夕暮ノ詞ヲ含メテ 價格人負富ヲ旅ニ  
 ニ題ハセル 誠ニ文章ノ奇法ト稱スレ然レハ此等ノ辭ニハ以テ  
 漢文式ヲ守リテ別ニ倭文ノ一休ヲ立タル法ニ私チキ證ニ文  
 ナラン但レ此序ニ御東ノ下ハ五老井ノ許ニシテ其時ノ文多筆行  
 ノ辭ト題シテ彼カ文選ノ各頭ニ置キ又去レト辭ト題セハ別ニ  
 筆格モアラシカト此辭詩ヲ論レハ又ニ此篇ヲ出セルナリ

鳥遊辭

作者不知

やんらさくばやし所や一戸所のも遊うまうりて神の神  
 といのちも殿もはくはの村もはくはのたは門もはくは

法廳向の地内も春まうりい所やらた大將も右大將園也  
 殿下もあひそまぬのちも遊はくあひすのよよあはるち  
 如へ西田もいよ所も南もいよ所ありもいよ所も南あり  
 中の牧のうももと常年いよ所の代もと打やんち  
 打らり田もくねくからりもいよ所もとくもいよ所も  
 神ももらる所もあつとよまらりもいよ所もあつと  
 一万米りりも麻もあつ 駒もはけやあつて雄ねも  
 志つり雄ねもいよ所もあつとあつとあつとあつとあつと  
 くらやあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 野のいよ所もあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと



歳類

雨の庵

芭蕉庵

あつちとては雨やれとて人のまゝまはらうとて  
くまのまふに一人はまふに一人はあつちとていふは  
よれし月のあつちとてあつちとてあつちとていふは  
つらふーやあつちとてあつちとてあつちとていふは  
かづり庵のまゝにあつちとてあつちとてあつちとていふは  
てまゝとてあつちとてあつちとてあつちとていふは  
あつちとてあつちとてあつちとてあつちとていふは

任云此題ハ大寺ノ辞ヲ借テ向ハ雨ナリ小人ノ独処ナリ

ト朱氏ヲ註モ云ヘリトワ去レハ此等ハ陰者ノ常情ニシテ  
或時ハ世ヲ疎トシ或ハ人ヲ懐シム本ヨリ心神不定ナリ  
ハ頓阿モ以月ノ情ニ過タリトニ兼好法師ノ歳文ル仲  
誠ニ此等ハ前後ニ羽字ヲ用イテ自己ノ散乱ヲ歳  
首尾ノ文法ヲ見ルキヨリ但シ此句ハ切字ノ発句トモ云フ  
キヤト故云羽モ詔リ玉ヘリトフ常ニ我師ハけ古ヌラ云ヘリ

猫恋の歳

ち巴辭

猫くくい〜と女この言は懐き〜とあつちとていふは  
〜とあつちとてあつちとてあつちとてあつちとていふは

罪後の懺しあらむむらばあふ用極とていぬみよ  
 るのやふわえちちらちちら月おのちかひ  
 ろくにけしき人同くはにちかて今もいりあ  
 うれちむむ早も罪<sup>ラ</sup>格のこもあにちら  
 けて今今ちの鐘お極もあもあもあもあもあも  
 のさよあ、極るのふちあもあもあもあもあも  
 えちひをてあもあもあもあもあもあもあも  
 けもあもあもあもあもあもあもあもあもあも  
 へを早もあもあもあもあもあもあもあもあも  
 賤のすはけいもあもあもあもあもあもあもあも

川東とていふらあしはれし有恒の色もあもあもあも  
 一おもいかにとて人を二世もあもあもあもあも  
 心く人とて掃もあもあもあもあもあもあもあも  
 しらにけうあもあもあもあもあもあもあもあも  
 こくじきさるもあもあもあもあもあもあもあも

ね云此公威ハ自利利他ニシテ詞ヲ言フニ瀆推ナリ  
 ハ源氏ノ風流ヨリ極早純ノ富言ヲ合セ或ハ徒然<sup>ハ</sup>サ  
 古語ヲ借テ極早純ノ古言ヲ揉ル狐ト猫トノニ父ハ  
 ラ云クテ又ト云字ノ徒<sup>ナ</sup>名ヲ重子タル文筆ノ自在ハ  
 此尚ニいんレシ然ルヲ孔子ノ語ヨリ人ノ色欲ノ猫ヨリ

毛浅尚敷ハ遠ク箴テ近ク慎カクニヤ然リ色ニ遊ヘクテ  
色ニ漂フカラストハ肉雖ノ意モ此更ナレレ但シ巴静ハ田  
氏ニシテ尾ノ城下ニ假居ス素生ハ濃ノ竹ノ竄ノ産ナリ  
トフ





